

感染症定期報告感染症別文献一覧表(医療機器 2018/10/1～2019/3/31)

ID	感染症(PT)	出典	概要
1	E型肝炎	国立感染症研究所 感染症情報センター. https://www0.nih.go.jp/niid/idsc/idwr/IDWR2018/idwr2018-30.pdf	2018年8月1日集計分の感染症発生動向総覧によると、本邦における2018年第30週のE型肝炎報告例は以下のとおりであった。感染地域(感染源):千葉県1例(不明)、神奈川県1例(牛生レバー)、石川県1例(豚肉)、都道府県不明3例(鴨肉1例、不明2例)、国内・国外不明2例(不明)。
2	E型肝炎	国立感染症研究所 感染症情報センター. https://www0.nih.go.jp/niid/idsc/idwr/IDWR2018/idwr2018-37.pdf	2018年9月19日集計分の感染症発生動向総覧によると、本邦における2018年第37週のE型肝炎報告例は以下のとおりであった。感染地域(感染源):東京都4例(牛生レバー2例、不明2例)、茨城県1例(不明)、神奈川県1例(不明)、新潟県1例(不明)、広島県1例(焼肉)、都道府県不明2例(豚レバー1例、不明1例)、静岡県/オーストラリア1例(牛肉)、国内・国外不明1例(不明)。
3	E型肝炎	国立感染症研究所 感染症情報センター. https://www0.nih.go.jp/niid/idsc/idwr/IDWR2018/idwr2018-43.pdf	2018年10月31日集計分の感染症発生動向総覧によると、本邦における2018年第43週のE型肝炎報告例は以下のとおりであった。感染地域(感染源):北海道2例(豚・牛のレバー1例、ホルモン1例)、神奈川県1例(不明)、兵庫県1例(不明)、都道府県不明3例(豚肉1例、焼肉1例、不明1例)。
4	H1N1インフルエンザ	AASV. https://www.aasv.org/news/story.php?id=11154	2017年9月17日、米国メリーランド州農業局は、9月14日から17日に開催された農業フェアにおいてインフルエンザウイルスに感染したブタについて報告を受けた。107頭のブタを調査したところ、発熱及び上気道疾患の徴候を有する5頭のブタが見つかった。
5	H1N1インフルエンザ	Outbreak News Today. http://outbreaknewstoday.com/cdc-reports-four-additional-human-infections-novel-influenza-viruses-71801/	2018年8月初旬のレポートに続き、米国疾病管理予防センター(CDC)は、2つの州での新型インフルエンザA型ウイルス(IVA)によるヒト感染例4例(カリフォルニア州2例、オハイオ州2例)を報告した。
6	H1N1インフルエンザ	ProMED-mail 20180730.5935434	米国Livingston郡保健局は、米国ミシガン州農業農村開発省がブタインフルエンザウイルス又はIAV陽性のブタをFowlerville Familyフェアで認めたと報告した。感染したブタは、2018年7月26日夕方夕方に兆候が出て、検査結果は、2018年7月27日午後確認された。当該フェアは2018年7月23日から7月28日に開催された。2018年7月28日時点において、ヒトへの感染は報告されていない。
7	H1N1インフルエンザ	ProMED-mail 20180812.5962204	ブタインフルエンザのアウトブレイクにより、米国ミシガン州Shiawassee郡の農業フェアは中止された。主催者は、感染経路について調査している。
8	インフルエンザ	CDC FluView. 2018/07/06	2018年7月6日、米国インディアナ州における初めてのインフルエンザA(H3N2)変異型ウイルス(IVA(H3N2)v)のヒトへの感染が、米国CDCに報告された。患者は18歳未満の小児で、入院せずに完全に回復した。発症の前週に農業イベントにてブタとの間接的な接触が報告された。当該報告により、2005年以降に米国で報告されたIVA(H3N2)v感染者数の合計は435例となった。ヒトへの変異型ウイルス感染は、感染したブタへ直接接触したヒトにおいて発生することが最も多いが、ブタと直接接せず感染する可能性もある。
9	インフルエンザ	CDC FluView. 2018/08/17	2018年8月17日現在、米国の3州からさらに4例の新型インフルエンザA(H1N2)変異型ウイルス(IVA(H1N2)v)感染症例が報告された(カリフォルニア州:2例、ミシガン州:1例、オハイオ州:1例)。2018年、合計9例の変異型ウイルス症例が米国CDCに報告されている。うち1例はIVA(H3N2)v(インディアナ州)、8例はIVA(H1N2)v(カリフォルニア州:4例、ミシガン州:3例、オハイオ州:1例)である。

ID	感染症(PT)	出典	概要
10	インフルエンザ	CDC MMWR. 67(2018)1169-1173	2017年9月14日から17日に米国メリーランド州において開催された農業フェアに出品された107頭のブタのうちの5頭にインフルエンザA(H3N2)ウイルス(IVA(H3N2))が確認された。ブタの出品者も罹患していることが報告された。同州の別の農業フェア2件(9月13日から17日及び9月15日から23日)についても調査したところ、これらのフェアでブタに接触した40例においてIVA(H3N2)vへの感染が確認された。うち、24例が5歳未満の小児であった。
11	インフルエンザ	CDC MMWR. 67(2018)1178-1185	2018年5月20日から10月13日の間、米国において新型IVAのヒト感染14例が報告された。1例はIVA(H3N2)vウイルス、13例はIVA(H1N2)vと関連していた。IVA(H3N2)v感染は、発症の前週に農業イベントにおいてブタへの接触があったインディアナ州の患者1例から報告された。
12	インフルエンザ	CDCホームページ. https://www.cdc.gov/flu/news/variant-virus-2018.htm	2018年7月6日、米国インディアナ州における初めてのIVA(H3N2)vのヒトへの感染が、米国CDCに報告された。患者は18歳未満の小児で、入院せずに完全に回復した。発症の前週に農業イベントにてブタとの間接的な接触が報告された。当該報告により、2005年以降に米国で報告されたIVA(H3N2)v感染者数の合計は435例となった。ヒトへの変異型ウイルス感染は、感染したブタへ直接接触したヒトにおいて発生することが最も多いが、ブタと直接接せず感染する可能性もある。
13	インフルエンザ	J Virol. 92(2018)1-16	ブタに蔓延しているIVAのフェレットへの感染伝播に関する調査を行ったところ、ブタ由来のインフルエンザA(H1N1)変異型ウイルスの多様な抗原性が、フェレットの発病性及び感染型に差異として示された
14	インフルエンザ	MDHHS. https://www.michigan.gov/mdhhs/0,5885,7-339--474988--,00.html	米国ミシガン州において、IVA(H1N2)vに感染したブタが農産物品評会に展示され、接触したヒト2例において感染が報告された。当該2症例は、2018年の米国で確認された最初のIVA(H1N2)v感染であった。さらに、カリフォルニア州においても追加の2例が報告された。
15	インフルエンザ	ProMED-mail 20180701.5884141	米国インディアナ州のhealth officialsは、同州が2013年以降初めてのブタから感染したインフルエンザ症例を記録したと述べた。米国CDCによると、検査結果により、2018年6月29日に米国で初めてのヒトにおけるIAV(H3N2)v症例が確認された。
16	インフルエンザ	ProMED-mail 20180809.5953369	米国ミシガン州及び地元の衛生当局者らは、Livingston群のFowlerville Familyフェアでブタに曝露したヒトにおけるIVAの確定症例2例を特定した。
17	インフルエンザ	ProMED-mail 20180816.5966615	California Department of Public Healthは、County of San Luis Obispo Public Health Department及び米国CDCと連携し、2例のヒトにおけるIVA(H1N2)v感染を確認した。当該症例は、California Mid-State Fairにおいてインフルエンザに感染したブタに接触した。
18	インフルエンザ	WHOホームページ. https://www.who.int/influenza/human_animal_interface/Influenza_Summary_IRA_HA_interface_21_09_2018-revised.pdf?ua=1	2018年8月10日、米国は2018年において最初のヒトへのIVA(H1N2)v感染(カリフォルニア州:小児2例、ミシガン州:小児2例)を報告した。小児らは発症前週に農業フェアでブタに直接接した後、軽度の呼吸器疾患を発症したが、入院を要した症例はなく全例が回復した。その後数週間以内に、米国の複数の州におけるヒトへのIVA(H1N2)v感染がさらに9例確認された。1例を除く全例が18歳未満の小児に発生し、1例を除く全例が発症前に農業フェアに参加していた。農業フェアに参加した者のうち、1例を除く全員がブタへの直接接があった。1例はフェアに参加しておらずブタへの接触も報告されなかったことから、ヒトからヒトへの感染もあつたことが示唆された。いずれの症例も入院せず、全例が完全に回復した。
19	日本脳炎B型	ProMED-mail 20180728.5934009	2018年7月28日、台湾の雲林において日本脳炎の第1例が公表され、台湾の保健当局は直ちに住民に対し、台湾で当該感染ウイルスのピークシーズンに入っている事を通知した。
20	ロタウイルス感染	Arch Virol. 163(2018)2261-2263	2007年から2008年にかけて、急性の下痢症状を呈した小児のうち6例について、ブタ起因のロタウイルス感染であった事が結論付けられた。
21	ロタウイルス感染	Transbound Emerg Dis. 65(2018)e317-e328	中国の糞便サンプルよりブタのロタウイルスの新型株が確認された。当該株はG3-P[13]-I5-R1-C1-M1-A8-N1-T1-E1-H1ゲノムを有し、タンパク7の遺伝子及び非構造タンパク4の遺伝子がヒトのロタウイルスA遺伝子と関連しており、ブタとヒトの株間における遺伝子の再集合が示唆された。分析は当該株が自然組換株であることを示し、組換交差はタンパク4のヌクレオチド456及び804で確認された。

ID	感染症(PT)	出典	概要
22	ヘルペスウイルス感染	PHE. https://assets.publishing.service.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/715511/Emerging_infections_summary_May_2018.pdf	人獣共通伝染病ではないと考えられていた仮性狂犬病 (Aujeszky disease virus又は Suid herpesvirus 1) のヒトへの感染が、初めて中国より報告された。
23	リフトバレー熱	ProMED-mail 20180817.5966611	2018年8月12日、ウガンダのIsingiro Chairman LCV (local council V) は、リフトバレー熱の症例数増加がIsingiroに転入する難民の増加に起因していると指摘した。血液サンプルから、Isingiroのウシ50頭中23頭がリフトバレー熱に罹患していることが確認された。ヒトにおけるリフトバレー熱疑い例28例中19例は退院し、6例は死亡し、他の症例も回復している。
24	リフトバレー熱	ProMED-mail 20180903.6005185	ウガンダのLyantonde地区においてリフトバレー熱のアウトブレイクが確認された。現地当局によると、2カ月間に当該疾患により11例が死亡し、数例が重体となっている。
25	血小板減少症	Vector Borne Zoonotic Dis. 18(2018)450-452	韓国の家畜ブタ (<i>Sus scrofa domestica</i>) に蔓延する重症熱性血小板減少症候群ウイルス (SFTSV) のシーケンスの特定を試みたところ、ヒトのSFTSVとは異なる新型のSFTSVのサブクレードが家畜ブタに存在する可能性が示唆された。
26	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	OIE Weekly Disease Information.2018/08/29	米国フロリダ州において6歳齢の食用ウシにおける非定型ウシ海綿状脳症 (BSE) の発症が報告された。感染の原因については特定されていない。20年に渡るBSEの監視において5例目の報告であり、報告された非定型BSEのタイプは全てHタイプであった。
27	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail 20180829.5995043	米国フロリダ州において6歳齢の食用ウシにおける非定型BSEの発症が報告された。感染の原因については特定されていない。20年に渡るBSEの監視において5例目の報告であり、報告された非定型BSEのタイプは全てHタイプであった。
28	プリオン病	OIEホームページ. http://www.oie.int/wahis_2/public/wahid.php/Reviewreport/Review?page_referrer=MapFullEventReport&reportid=27683	2018年8月29日、米国農務省 (USDI) は米国のBSEサーベイランスプログラムの一環で、フロリダ州Marion郡において6歳齢の肉用雌ウシが非定型BSEに陽性を示したと発表した。当該ウシはコロラド州立大学獣医診断研究所において8月26日に非定型H型BSE陽性と診断され、殺処分された。米国国内における20年以上のサーベイランスにおいて検出された5件は全て非定型例であった。当該ウシは、いかなる食品流通システムにも入らず、ヒトの健康に害をもたらすことはなかった。特定危険部位の除去及び肉骨粉等の飼料供給及び利用禁止は引き続き効果的に適用されている。
29	レンサ球菌感染	病理と臨床. 36(2018)286-290	ブタに病原性を示すレンサ球菌のうち、 <i>Streptococcus suis</i> (<i>S.suis</i>) の細菌学的特徴を概説し、獣畜での <i>S.suis</i> 感染症、ヒトにおける <i>S.suis</i> 感染症及び <i>S.suis</i> 感染症の病理的特徴が解説されている。
30	炭疽	OIE Weekly Disease Information. 2018/5/31	2018年5月、ミャンマーにおける炭疽への感染例が報告された。農夫及びその同僚は動物の屠体を埋葬せず、肉を消費したことにより、5例が手及び足に感染した。現在、患者らは回復している。
31	炭疽	Outbreak News Today. http://outbreaknewstoday.com/romania-anthrax-reported-saveni-pig-farm-65894/	ルーマニアの国家動物衛生・食品安全性当局は、モルドバとの国境に近いSaveniの農場において、炭疽感染を報告した。1頭のブタを処分したが、他の13頭のブタも感染の可能性がある。
32	炭疽	ProMED-mail 20181002.6066268	ウクライナの地元警察が2018年10月2日に発表したところによると、南部オデッサ州Saratsky地方の村において炭疽が確認された。暫定的な情報によると、当該疾患の感染源は肉用に屠殺された家畜のウシ1頭である。当該ウシの皮を剥いた5例が症状を訴え、病院に搬送された後は医師の管理下にある。患者らに命の危険はない。

ID	感染症(PT)	出典	概要
33	炭疽	ProMED-mail 20181005.6073308	ウクライナの地元警察が2018年10月2日に発表したところによると、南部オデッサ州 Saratsky 地方の村において炭疽が確認された。暫定的な情報によると、当該疾患の感染源は肉用に屠殺された家畜のウシ1頭である。当該ウシの皮を剥いだ6例が症状を訴え、病院に搬送された後は医師の管理下にある。患者らに命の危険はない。
34	大腸菌性胃腸炎	ProMED-mail 20180425.5769489	2017年後期、米国 San Diego で海軍に採用された数百人において大腸菌への感染が報告された。海軍志願者のうち244例の男性志願者が罹患し、うち15例は溶血性尿毒症候群(HUS)を併発していた。HUS罹患者のうち、6例は特に重篤な経過を辿ったが、死亡例はなかった。患者及びコントロールとして発症していない健康な対象者にインタビューを行った結果、民間の契約業者による牛肉の調理が加熱不十分であったことによる感染の可能性が示唆された。
35	大腸菌性胃腸炎	ProMED-mail 20180426.5770265	カナダのアルバータ州において、豚肉が感染源となった腸管出血性大腸菌O157感染症が発生した。
36	胃腸炎	IJMM International Journal of Medical Microbiology. 308(2018)539-544	2017年2月10日から2017年2月18日までオーストリアへ学校主催のスキー旅行に参加したドイツ人学生25名のうち9名が、胃腸炎を発症した。オーストリア当局は、宿泊したホテルにおいて1月から2月にかけて、農場から出荷された未処理の牛乳が朝食に出されていたことを発見した。
37	サルモネラ症	ProMED-mail 20181212.6204049	2018年10月中旬からデンマーク国立血清学研究所に報告されているサルモネラ症の感染症例(32症例及び19例の入院)についてデンマークの当局が調査中である。初期情報では、原因として生の豚肉が指摘された。
38	サルモネラ菌	reuters. https://www.reuters.com/article/us-jbs-lawsuit/jbs-sued-by-kentucky-woman-over-ground-beef-in-salmonella-recall-idUSKCN1MF2PL	米国ケンタッキー州の女性はブラジルのJBS SA社米国部門製のサルモネラ属細菌に汚染された牛挽肉製品を喫食後、入院したとして同社を提訴した。JBS Tolleson社が、米国全土の店舗に出荷した牛挽肉及びその他の生の牛肉製品650万ポンドを自主回収したとUSDIの食品安全検査局(FSIS)が発表してから1日後に同訴訟は提起された。米国の調査員は少なくとも16州57例でJBS社製の牛肉製品によるサルモネラ感染例を確認した。
39	レプトスピラ症	ProMED-mail 20180818.5973544	20世紀後半から21世紀初頭にかけて、イスラエルのウシにおいて検出された主要なレプトスピラ症の種は、 <i>Leptospira borgpetersenii hardjo-bovis</i> であり、肉牛の約50%が血清学的に陽性を示し、乳牛において散発的なアウトブレイクが報告され、当該疾患のヒト症例が報告された。
40	リステリア症	CDCホームページ. https://www.cdc.gov/media/releases/2019/s0129-listeria-outbreak-vietnamese-pork.html	米国において、ベトナムの豚肉製品に起因するリステリア感染症のアウトブレイクが確認された。4州で4例の患者が報告され、全員が入院した。死亡例は報告されなかった。2018年11月20日、ヒューストンにあるロング・パンク・フード・プロダクツ社は、豚肉製品がリステリア菌に汚染されている可能性があるため、インスタントの豚肉製品を回収した。
41	リステリア症	Outbreak News Today. http://outbreaknewstoday.com/vietnamese-pork-patty-rolls-recalled-due-possible-listeria-contamination-44560/	米国テキサス州Houstonにある事業者が、 <i>Listeria monocytogenes</i> が混入している可能性がある、2018年5月21日から11月16日までに製造された豚肉製品を回収していると、米国FSISが発表した。
42	ロドコッカス感染	Transboundary and Emerging Diseases. 65(2018)321-326	ウシのリンパ節、ウシの腸及びヒトの臨床検体について調査したところ、ロドコッカス・エクイ感染症のウシ関連プラスミドがウシリンパ節及びヒト免疫不全ウイルス感染患者の肺から特定された。
43	旋毛虫症	ProMED-mail 20180730.5935787	Telediarario Digitalの報告書によると、アルゼンチンのコルドバ州における旋毛虫症の追跡調査において、症例数は232例に増加した。

ID	感染症(PT)	出典	概要
44	旋毛虫症	ProMED-mail 20180906.6012123	2018年8月22日、アルゼンチンのラパンパ州の疫学部門は、ヒトにおける旋毛虫症の疑いがある症例の報告を受けた。同州南部に位置するCuchilloの町では、当該症例の調査が行われた。
45	疥癬寄生	BMC Veterinary Research. 14(2018)91-96	ペットのブタへのヒゼンダニの寄生及び小児への伝染について報告された。
46	Q熱	J Infect Dev Ctries. 12(2018)290-296	セルビア・モンテネグロ国境地帯におけるQ熱大流行の保菌者、感染源及び感染経路について調査された。Orasac近郊の小規模農園のヒツジ及びウシにおいて抗コキシエラ抗体の血清陽性率の高値を認めた。
47	ダニ媒介熱	ProMED-mail 20180801.5940018	オーストラリアのクイーンズランド州のダニ汚染がないと考えられている地域において、ダニ熱のアウトブレイクにより18頭のウシの死亡が確認された。ウシ生産者は現行管理の改善及び調査を要請している。
48	ダニ媒介熱	The Singleton Argus. https://www.singletonargus.com.au/story/5421005/cattle-tick-warning/	オーストラリアの複数の地域において、約70頭のウシがダニ熱のために死亡した。適切な家畜衛生管理を呼びかけている。
49	感染	Infect Chemother. 50(2018)274-279	韓国においては、4例の散発性かつ非致死性のブタレンサ球菌の感染症例が報告されている。本研究において、韓国で初めてとなる敗血症を伴う致死性のブタレンサ球菌感染症1例が報告された。患者は健康な養豚農家で、消化管が感染経路と考えられた。
50	感染	Parasitol Res. 117(2018)1637-1641	イタリアのSardegna島の有機農場において飼育されていたブタのトキソプラズマ原虫 (<i>T. gondii</i>) 蔓延率を評価した。PCR法によって、調査した養豚農場全体の54.8% (34/62) が <i>T. gondii</i> 陽性であることが確認された。被検査動物の脳のサンプルを検査したところ、47.7% (51/107) において <i>T. gondii</i> のDNAが検知された。 <i>T. gondii</i> の高い蔓延率が確認されたことは警戒すべきであり、有機農場で飼育されたブタが、調査した地域のヒトへの重要な感染源の1つであると考えられるべきことが示唆された。